

OSFだより

第87号 2007(H19)年12月



発行・編集 財団法人岡本国際奨学交流財団 263-0023 千葉市稲毛区緑町1丁目19番11号 TEL043-248-8808 FAX043-238-4138
osf-midori1911@codan.ocn.ne.jp http://www.osf-family.com
OSF(Okamoto Scholarship Foundation)の活動案内 1、留学生宿舍の運営 2、留学生へ奨学金の支給 3、留学生の学習&人生相談・国際交流

もったいない

会長 岡本 正



小学館の大辞泉を見ると、もったいないは「有用なのにそのままにしておいたり無駄にしてしまうのは、惜しい」と、解説してある。

この言葉は私の少年時代には、毎日母から何回も言われていた、ごく普通の日常語だった。それが一時期まったく死語になっていたが、最近復活してきて、度々耳にするようになった。良いことだ。

母から一番注意されたのは食事の時。少しでも残すと「正、きれいに全部食べなさい。お百姓さんが汗水流して作ったんです。もったいない」。ごはん(米)粒を落したら、「拾って食べなさい。もったいない」等等だ。

節約・倹約は美德、浪費は悪徳だった。

40年ほど前、初めてアメリカへ行ったが、最も驚いたのは、アメリカ社会の基調は「消費は美德なり」で、私たちの考え方の正反対であったこと。

燃費の悪い大型車が、ガソリンを垂れ流して走っている。大きなビルに、夜中すべてのフロアで電気のつけっぱなし。少し前に行った中国の夜の暗いことと比べると天地の差。食べ物をまだ食べられるのに平気で捨ててしまう。「もったいない」という表現はそこでは使えなかった。

あれから何十年かたった今日。ある大学の留学生のパーティーでの学長の挨拶。「諸君は日本へ留学して、現在の日本社会のまねをしてはならない。日本は今、過度の消費の中にある。このことはまさに亡国の前兆だ。二千年前のローマ、ギリシア、エジプトの歴史を見ればよくわかる。」さらに「日本人学生を見習ってはならない。日本人学生は遊んでばかりいて、ほとんど勉強しない。彼らの関心はグルメ、旅行、ガール(ボーイ)フレンドのことに向いている。」

私も学長の考えにまったく同感だ。先年イタリア観光の時の話。二千年ほど前の貴族の別荘跡を見学した

ことがあった。別荘の裏に井戸らしき穴があった。ガイドいわく、「ここでは貴族達のパーティーがひんぱんに行われていて、山海の珍味とお酒がふんだんに振る舞われた。彼らは満腹になり、それ以上口に入らなくなると、この穴へ吐き出してもう一度食べなおした。」

そのころの日本はまだ文明が始まったばかり。ヨーロッパでも、ローマ・ギリシア以外は文字を持たない未開の民族のころだ。そのような時代に、高い消費生活の一部にせよローマにはあったのだ。大いなる驚きであり、それはまた、ローマ帝国衰亡への道でもあった。

世界の石油資源はあと、50年くらいしかもたないと言う。エネルギーだけではない。環境の悪化も無計画な大量消費の結果だ。中国では黄河の水がなくなりかけている。私は長江を重慶から上海まで船で下ったが、水の汚染はひどいものだった。アラスカの氷河の見学にも行ったが、氷河が次々と溶けている。

このままでは人類の終末も近いのではないかと心配になる。「タイタニック号の椅子並べ」という格言を思い出す。「世界一の豪華客船が氷山にぶつかり、じょじょに浸水している。このことに気づかず、従業員はホールでパーティの準備をしている。」

今まさに地球は破滅の道を進んでいることを理解せず、世界の各国各民族は依然として大量消費を続けている。昨年度のノーベル平和賞をもらったアフリカの女性リーダーが、日本に来て「もったいない」という言葉を高く評価した。うれしいことだ。今こそ声高らかに「もったいない」と叫び、この考えを世界に広めようではないか。そうしないと地球はタイタニック号と同じ運命をたどる。私たちの子ども、孫への責任ではないか。真剣に考えなくてはならない。さようなら、大量消費型生活。こんにちは、節約もったいない型生活。